ベストクラス選定理由書

作成者：峯 幸太郎・林 恒志郎・山中 一英・澤田 一陽・TADA Wendy Eileen・今井 正光・福永 裕未・樋渡 正衡

科目名称　　言語の仕組みと言語教育（昼間クラス） （担当教員名：菅井三実）	
課　　程　：　大学院（専門職）	開講時期　：　前期
授業形態　：　講義・演習	授業規模　：　３１人以上
インタビュー対象教員名　　菅井三実 （実施日時：８月２８日；　実施場所：ZOOM 上）	
インタビュー対象受講者名　野村佑吉・西脇陽介 （実施日時：８月２８日・９月１０日；　実施場所：ZOOM 上）	

（選定理由）

・受講者のアンケートの回答数が 29／32 と多く意欲が高いこと。

・授業形態が一定ではなく、学びを深める工夫がなされていること。

・講義内での質疑応答や学生同士の学び合いなどの活動が活発的に行われていること。

・先生の授業に対する熱意が感じられること。

この選定理由を元に、本授業の担当教員と受講者 2 名に対してのインタビューを実施し、授業の特徴が 2 つ明らかになった。

1. 実際の教育現場と結びついた学び

本授業では、言語学の基礎研究を学校教育と関連づけて扱っている点が大きな特徴である。専門的な知識を持っていない学生を前提に授業が進められ、先生は「言語について深く知る立場」として、学生は「教育現場に詳しい立場」として、それぞれの強みを生かしたやりとりが行われている。学術的な理論の説明だけでなく、「阪神の首位転落」や「太陽の色は白か赤か」といった身近な話題を例に出して説明されることで、難しい内容でも理解しやすく、興味をもって学ぶことができる点が魅力である。さらに、スキーマ理論などの概念を自分の経験に結び付けて考えるよう促されるなど、実際の教育現場に応用できる形で授業が展開されている。

2. 多様な学びを支える環境作り

講義形式を基本としつつ、学生が自由に発言や質問をできる時間が設けられている。先生は質問を好意的に受け止め、全体で共有することで学びを広げている。また、毎回の授業の最後に 10 分ほど質問時間を設けるなど、理解を丁寧に支える工夫もある。授業資料は manaba で事前に共有され予習をしやすくなっている。また予備知識を有していなくても参加しやすく、多様な受講生にも配慮された内容である。さらに、留学生を含む多様な学生が学び合う雰囲気があり、互いが意見を発言することのできる環境が形成されている。授業を受けて終わるのではなく、学生同士や先生とのつながりを通して学びが続く点が魅力である。

以上のことから、言語の仕組みと言語教育を「ベストクラス」として選定する。